

水稻新奨励品種「もち美人」の特性

仲條眞介・神山芳典・佐々木 力・田村和彦・荻内謙吾・中野央子・高橋正樹・尾形 茂・

長谷川義孝・高橋真博¹⁾・扇 良明²⁾・小田中 浩哉³⁾・照井儀明⁴⁾

(岩手県農業研究センター・¹⁾ 岩手県商工労働観光部・²⁾ 久慈農業改良普及センター・³⁾ 水沢農業改良普及センター・⁴⁾ 盛岡農業改良普及センター)

Characteristics of a New Rice Cultivar "Mochibijin"

Shinsuke NAKAJO, Yoshinori KAMIYAMA, Tsutomu SASAKI, Kazuhiko TAMURA, Kengo OGIUCHI,

Hiroko NAKANO, Masaki TAKAHASHI, Sigeru OGATA, Yoshitaka HASEGAWA, Masahiro TAKAHASHI¹⁾,

Yoshiaki OGI²⁾, Hiroya ODANAKA³⁾, Yoshiaki TERUI⁴⁾

(Iwate Agricultural Reserch Center・¹⁾ Department of Commerce, Industry, Labor and Tourism.

Iwate prefecture・²⁾ Kuji Agricultural Extension Center・³⁾ Mizusawa Agricultural Extension

Center・⁴⁾ Morioka Agricultural Extension Center)

1 はじめに

「ヒメノモチ」は岩手県で昭和 47 年 (1972 年) に奨励品種として採用され、矢巾・紫波町以南の北上川流域を適地として栽培されてきた。中でも紫波町には日本一の栽培面積を有する糯米生産団地があり、その基幹品種として大きな役割を果たしてきた。しかし作業集中による刈遅れや、天候不順年における穂発芽に伴う品質低下がしばしば問題となった。そのため糯米生産団地からはヒメノモチとの作期分散が可能で栽培特性に優れた糯品種が望まれていた。

「もち美人」導入による「ヒメノモチ」との作期分散により、県産糯米の市場評価向上が期待される。

2 育成経過

「もち美人」は、平成 3 年 8 月、栽培特性に優れた中生糯品種の育成を目標として、旧岩手県立農業試験場県南分場 (平成 9 年、岩手県農業研究センター農産部銘柄米開発研究室に改組、平成 13 年 3 月廃止) において、「新潟糯 31 号」 (後の「わたぼうし」) を母とし「中部糯 80 号」を父として交配を行い、その後代から選抜育成された。

平成 4 年 3 月から平成 5 年 4 月にかけて F₁~F₃ 世代

までを温室内で世代促進を行った。平成 5 年に F₄ 世代で個体選抜を行い、平成 6 年以降は系統栽培により選抜・固定を図った。平成 7 年に生産力検定試験、葉いもち圃場抵抗性検定試験を開始、以降平成 13 年までの間に、穂いもち圃場抵抗性検定、いもち病真性抵抗性遺伝子型の推定、穂発芽性検定、耐冷性検定試験、食味官能試験、加工適性試験を実施し特性を検定した。平成 10 年 F₉ 世代から「岩南糯 19 号」の系統名で奨励品種決定試験に供試して検討を重ねた結果、栽培特性に優れ現行品種との作期分散が可能で加工適性にも優れていることから、平成 14 年 2 月に岩手県の奨励品種として採用され、現在品種登録申請中である。

3 特性の概要

(1) 形態的特性

稈長は「ヒメノモチ」「こがねもち」より短く、穂長は「ヒメノモチ」より短く、「こがねもち」よりも長い。穂数は「ヒメノモチ」並みで「こがねもち」より少ない。草型は“偏穂重型”である。稈の太さは「ヒメノモチ」並で、稈質は「ヒメノモチ」並の中である。耐倒伏性は「ヒメノモチ」よりやや強い“やや強”である。芒の多少と長短は“稀”“極短”で色は褐色、ふ先色も褐色である。着粒密度は“中”、玄米千粒重は「ヒメノモチ」よりもやや大きい (表 1)。

(2) 生態的特性

出穂期・成熟期は「ヒメノモチ」よりやや遅く、「こがねもち」より早い「中生の晩」で、収量性は「ヒメノモチ」並みである。穂発芽性は“やや易”である。いもち病真性抵抗性遺伝子型は“*Pia,Pik*”と推定され、圃場抵抗性は葉いもちが“やや強”，穂いもちが“強”である(表1)。障害型耐冷性は“やや強～強”で「ヒメノモチ」，「こがねもち」に優る(表2)。

(3) 品質・食味

玄米の外観品質は「ヒメノモチ」並みで，「こがねもち」に優る“上下”である。食味は「ヒメノモチ」並の“上下”である。切り餅のライン生産における加工適性は「こがねもち」並に優れる(表3)。

4 栽培上の留意点

(1)耐倒伏性は「ヒメノモチ」に優るが，当面，窒素施用量は「ヒメノモチ」並とする。

(2)圃場抵抗性は葉いもちが“やや強”，穂いもちが“強”であり，「ヒメノモチ」に準じたいもち病の防除が必要である。

(3)刈取時期は当面，積算平均気温(アメダス値)で1,000℃前後で黄化初率85%程度を目安として刈取りを行う。

(4)穂発芽性が“やや易”なので適期刈取に努める。

(5)岩手県における適応地帯は矢巾・紫波以南，北上川流域の標高250m以下とする。「ヒメノモチ」との作期分散を目的に，「ヒメノモチ」作付け地帯の約3分の1に当たる1,000haを当面の普及見込み面積とする。

表3. 餅加工適性評価

ライン適性	製餅時，杵頭やカッター刃への付着が少なく良好
製餅後の硬化速度	こがねもち並
餅の白さ (色度計 b 値)	こがねもちより白い
(b 値低い→白い)	もち美人: (+5.37)
	こがねもち (+6.05)
餅官能検査	香り +0
(こがねもち基準)	味 +0.2
	こし -0.2
	のび +0.6
	総合評価 +0.4

注. 1) H11. S社(新潟県)による評価。

2) 岩南糯19号は岩手県産，こがねもちは新潟県産。

表1. 特性の一覧表

系統・品種名 項目	もち美人	ヒメノモチ	こがねもち
早 晩 性	中生の晩	中生の中	晩生の晩
草 型	偏穂重型	偏穂重型	偏穂重型
出 穂 期	8月5日	8月3日	8月12日
成 熟 期	9月16日	9月13日	9月28日
稈 長 (cm)	79.9	85	86.8
穂 長 (cm)	18.1	19.1	16.6
穂 数 (本/m ²)	345	356	372
芒の多少・長短	稀・極短	稀・短	稀・短
ふ 先 色	褐	黄白	褐
脱 粒 性	難	難	難
耐 倒 伏 性	やや強	中	やや弱
穂 発 芽 性	やや易	易	易
耐 冷 性	やや強～強	中	中
いもち病真性抵抗性 遺伝子型	<i>Pia,Pik</i>	<i>Pik</i>	<i>Pia</i>
葉いもち圃場抵抗性	やや強	強	やや弱
穂いもち圃場抵抗性	強	強	中
玄米収量 (kg/a)	53.0	51.5	56.3
対 標 準 比	103	100	109
玄米千粒重 (g)	24.9	22.7	21.9
品 質 (総 合)	2.3	3.3	4.3
検 査 等 級	2.9	4.2	5.3

注 1) 岩手県農業研究センター(北上市)奨励品種決定本調査標本区の試験結果。

2) 穂発芽性，耐冷性，いもち病真性抵抗性遺伝子型，葉いもち・穂いもち圃場抵抗性は育成地成績による。

3) 品質(総合)は1(上上)～9(下下)の9段階評価。検査等級は食糧事務所による格付け1上～3下を1～9，規格外を10点に数値化したもの。

表2. 障害型耐冷性検定結果(岩手県農業研究センター農産部水稻育種研究室，1995～2001年平均)

品種・ 系統名	出穂 期 (月/日)	不稔 歩合 (%)	熟期	総合 判定
もち美人	8/23	64	C	やや強～強
ヒメノモチ	8/20	73	C	(中)
こがねもち	8/26	92	D	やや弱
イブキワセ	8/22	62	C	(強)
ササミノリ	8/19	82	C	(やや弱)
トドロキワセ	8/22	45	D	(極強)
オオトリ	8/25	58	D	(強)
コガネヒカリ	8/26	70	D	(やや強)
トヨニシキ	8/27	89	D	(やや弱)

注. 1) 判定欄の()内は基準品種の判定基準。

2) 熟期はAはハヤコガネ，Bはアキヒカリ，Cはササミノリ，Dはササニシキの各クラス。